



令和4年度

学校経営の方針

山形市立明治小学校

1. 学校教育目標 (＝目ざす子ども像)

学びを生かして「わたしの世界」「わたしたちの世界」を
豊かに創造しようとする子ども

2. 目ざす子ども像について

文科省「新しい教育基本法と教育再生」より育成を目指す人間像

○知・徳・体の調和がとれ、生涯にわたって自己実現を目指す自立した人間

⇒「わたしの世界」の創造

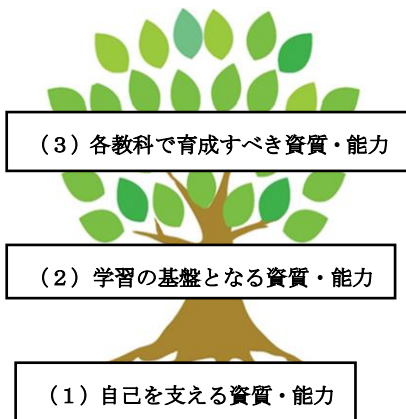
○公共の精神を尊び、国家・社会の形成に主体的に参画する国民

⇒「わたしたちの世界」の創造

「わたしの世界」の創造… 自分を見つめる、自分をつくる

「わたしたちの世界」の創造… 他者とのかかわりをつくる、集団とのかかわりをつくる
社会とのかかわりをつくる

3. 育成をめざす資質・能力



(1) 自己を支える資質・能力

(木の「根」のようなもの 深く根を張れば、倒れることがない)

①感動・欲求の主体化

②共生への志向 (人間関係形成能力・社会形成力)

③基本的自尊感情

(2) 学習の基盤となる資質・能力

(木の「幹」のようなもの 太ければ、枝がしなやかに広がる)

①言語能力 ②メタ認知

③身体知 ④問題発見・目標設定能力

⑤問題解決・目標達成能力

(仮説設定→実践→評価→仮説の再設定)

⑥情報活用能力

(3) 各教科で育成すべき資質・能力

(木の「葉」のようなもの いきいきとしていけば、栄養が全体にめぐり豊かな花や実がなる)

※ 各教科等の学習指導要領解説によるが、総合的な学習の時間では「地域や社会における産業の役割を理解し地域創生等に生かす力」に重点をおく

4. 目ざす学校像

「子どもも、教師も、保護者・地域も学び合う学校」

※「学び」を中心に据えた学校経営

5. 目ざす教師像

「育成をめざす資質・能力」を自らにも求め、成長しようとする教師

(1) 学び続ける教師 (研究と修養に励み、児童の良さや可能性を伸ばす教師)

(2) 学び合う教師 (授業や子どもについて語り合い、学校の教育力を高めようとする教師)

6. 校内研究

試行錯誤しながら追究し、ともに学び合う子どもの育成

—遊びや生活、学びのつながりを意識して—（1年次）

7. 教育活動の方針（育成をめざす資質・能力にかかわって）

（1）自己を支える資質・能力にかかわって

丁寧な見取りと対話による子ども理解を土台とした教育活動の展開

- ①生徒指導の3機能を働かせた教育活動
- ②美しさ・面白さに浸ったり、没頭したりする教育活動
- ③遊び・生活の中の「不思議」「なぜ」等の問いを活かした教育活動

（2）学習の基盤となる資質・能力にかかわって

全ての教育活動で、意図的・計画的に活用する。

- ①「自分づくり」「集団づくり」の推進
- ②自分についての言語化
五感で感じていること、考えていること、感情の変化などを言語化する
- ③他人との比較ではなく、自分の成長を意識させる自己評価

（3）各教科で育成すべき資質・能力にかかわって

教科の見方・考え方を育成する授業づくり（学びの汎用性）

- ①有意味学習
- ②オーセンティックな学習
- ③明示的な指導

8. 本年度の重点

（1）学びづくり

①地域を教材とした学習を展開する。

- ・地域学習の中で身につけさせたい資質・能力の明確化。
- ・地域の教育力を生かした教材開発。
- ・地域（自然・産業・人）の魅力と抱える課題についての追究

②読書活動を推進する。

- ・国語授業における並行読書
（読みの力の観点からの発展読書・教材の内容の類似や県形成をもとにした発展読書）
- ・日常的な読み聞かせの実施
- ・音読 詩の暗唱
- ・ビブリオバトル、ブックトークなど多様な読書活動の工夫。

③情報教育を推進する。

- ・タブレットの効果的な活用方法の工夫
- ・プログラミング教育を通して、論理的な思考力を養う。
- ・情報モラルを系統的に養うための実践。
- ・情報リテラシー
- ・依存への対応

④自分の学びを自分で設計する機会を設ける。

- ・個人総合（事前・事後学習を丁寧に行い、夏休みの課題として取り組む）
- ・単元内自由進度学習、順序選択学習、課題選択学習、課題設定学習等の導入
- ・複式学級における自学づくり

⑤美しさ・面白さに浸ったり、没頭したりする教育活動を推進する。

- ・各教科における「遊び」単元（造形遊び、運動遊びなど）の充実化

⑥遊び・生活の中の「不思議」「なぜ」等の問いを活かした教育活動を推進する。

- ・子どもの疑問を授業に位置づけることにより、課題を自分ごととしてとらえられるようにする。

(2) 心づくり

- ①児童自身の自己決定（自分で考え、自分で決める）を大切にする。
頭ごなしに指導しない。自己決定を促す3つの言葉がけ
 - i 「どうしたの?」（「なにか困ったことはあるの?」）
 - ii 「君はどうしたいの?」（これからどうしようと考えているの?）
 - iii 「何を支援してほしいの?」（「先生になにか支援できることはある?」）
- ②「失敗しても OK」を徹底する。
「失敗しても大丈夫だよ」「失敗こそが学び」ということを単なる標語で終わらせない。
- ③特別活動における人間関係形成・社会参画・自己実現を図る。
 - ・対話を通し、合意形成を図る。
 - ・自己の役割を自覚して集団の一員として役割を果たす機会を設定する。
 - ・課題解決のために、効果的な自発的、自治的な活動を展開させる。
 - ・豊かな文化を創造することを通して、集団への所属感と貢献意識を醸成する。
- ④キャリア教育の推進
 - ・「ありたい自分・なりたい自分」になるための取り組みを支援する。
（目標設定・アプローチの検討・自己評価）を支援する。
 - ・「自分にとってよいこと」が「みんなにとってよいこと」につながっているかの問いを大切にする。
- ⑤「学級・学校づくり」の推進
 - ・「こんな〇〇会にしたい」「こんな学級・学校にしたい」という思いを共有し、そのために自分達がすべきことを考え取り組む活動を推進する。
- ⑥「いのちの教育」の推進
 - ・基本的自尊感情を育てる。
 - ・「いのち」のつながりと多様性に気づかせる。
 - ・自然・社会体験を通して、生きていることを実感する。
 - ・人と心が通じ合う言葉を育てる。（ソーシャルスキルトレーニング含む）
 - ・失敗体験を価値づける。

(3) 体づくり

- ①遊びから運動の楽しさへつなげる。（運動遊びの充実）
- ②自分の体の状態についての言語化の機会を設ける。
- ③「ちょこトレ」、体育集会などの体づくりへの継続的な取り組みを進める。
- ④水遊び⇒水泳学習を丁寧に指導する。（2年間学習なしからのカリキュラムの検討）
- ⑤児童が主体的に取り組む健康教育を推進する。
 - ・心身の健康の保持増進
 - ・自律的な家庭生活の実践（適切な生活リズムの確立とメディアコントロール）
- ⑥危機察知能力・回避能力を「いのちの教育」に位置付けて育成する。
 - ・いのちの重点月間を設ける。（4月の安全教育と10月のいのちの教育）
 - ・家庭と連携しながら日常的に自律的で安全な生活を営む資質を育成する。
 - ・防災教育を推進する。いのちを守る判断力と行動力を養う各種訓練の実施する。